

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年12月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673100113
法人名	医療法人 木村外科内科
事業所名	グループホーム きむら
所在地	鹿児島県鹿児島市石谷町2105番地3 (電話) 099-278-0058
自己評価作成日	令和1年11月27日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設は高台にあり、遠くに矢筈岳を望み周りの山々、松陽高校、家々が見え景観がよく利用者様は四季を感じながらのんびりと生活されています。

・建物が平屋建てですぐに庭へ出られるので天気の良い日は散歩、お茶会日光浴が出来気分転換を図れる。

・季節を感じられるよう毎月行事(外出または室内行事)を計画し、昔ながらの行事については利用者様のアドバイスを頂きながら行っている。

・同敷地内に24時間緊急対応の医療機関が隣接しており、入居者様の個別の医療ニーズや急変等にも対応している為ご本人、ご家族も安心している。

・関係機関、公民館長、民生委員の方々と協力を頂き地域との交流が出来ている。

・地域に根差した施設を目指している。

ホームは、鹿児島市役所松元支所から約4キロメートル離れた住宅地に、系列法人の医療機関や有料老人ホーム、デイケア、小規模多機能ホームに隣接して設置されており、周辺にはスーパー、個人住宅等が立ち並んでいる。幹線道路から少し控えた場所にあるため静かで、風光明媚な落ち着いた環境である。隣接の事業所とは夏祭りや防災訓練等を合同で開催する等、協力体制が築かれている。

開設して15年が経過し、地域密着型事業所として地域に周知が図られ、家族や友人知人の来訪は日常的にあり、公民館主催のイベントへの参加やボランティアの受け入れ、散歩や外出時の会話など円滑な交流が図られている。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域や家族と触れ合いながら、その人らしく生きがいと笑顔に満ちた暮らしとなるよう日々努めている。日頃から利用者や家族からの意見や要望の把握に努め、尊厳を大切に無理強いすることの無い利用者主体のケアに取り組んでおり、厚い信頼関係が築かれている。また、外出や季節の行事等は、利用者の意向を確認しながら工夫して取り組んでおり、今夏初めて開催した夏祭りでは、金魚すくいやたこ焼き、焼きそば等の出店に利用者は大喜びで、その後しばらく、話題にしていたという。

管理者は、職員の和や信頼関係、協力体制の構築が大切と考えており、日頃から気軽に意見が言い合える雰囲気づくりに努めて意見や要望を把握し、個人的事情にも配慮しながら運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。計画的な研修の実施や業務に対する助言・指導を積極的に行い、外部研修や勤務シフトに本人の意向を反映させるなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、入社時に必ず理念を理解してもらうようオリエンテーションの中で説明をしている。基本理念については、和室・玄関・トイレ等に掲出し意識付けを行っている。	開設時に職員全員で話し合って作成した理念を玄関や和室、トイレ等に掲示して周知を図り、申し送りやミーティング等でケアの振り返りを行って理念に添った支援の実践に努めている。職員採用時には、理念を十分理解して貰うように研修等を徹底している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館長や地域の方々と連携して地域行事・運営推進会議への参加、地域周辺への挨拶まわり、ボランティアの受け入れを行っている。また地域敬老会、地域行事に入居者様も参加させて頂き地域の方々に気軽に着て頂いている。	自治会に加入し、公民館長の定期的な来訪で地域の状況を把握し、敬老会や文化祭、餅つき大会等には案内も貰って可能な限り参加している。日頃から小規模多機能ホームの利用者と交流し、散歩や外出時には地域の人との挨拶や会話を楽しみ、友人知人の面会、ボランティアの受け入れ、農作物等を頂く等、円滑に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々や入居者様、ご家族、職員の交流を深めるために運営推進会議、食事会を開催している。また地域の方々に認知症についてご理解頂けるように運営推進会議の中でご説明をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。ご家族、公的機関、地域の方々をお呼びして意見や要望をお聞きしている。またスタッフ会議で報告・周知を行ってサービス向上に努めている。	会議は、家族、公民館長、民生委員、市長寿安心センターの職員等が参加して定期的に開催しており、ホームの現状や行事計画、活動内容、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは防災やケアに関する質問や意見、地域の情報等が出されている。職員は内容をスタッフ会議や会議録で共有しサービスの向上に繋げている	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年1回の介護相談員、生活保護員の受け入れにより、その中で入居者様の思いを受け止めて生活支援に取り組んでいる。また集団指導や自治体の研修等に参加し、必要に応じて報告相談などの連絡に努め業務品質向上を目指しています。	市担当者には、電話や訪問で利用者のケアやホームの運営及び各種制度の手続き等の相談を行い、助言・指導をもらう等、協力関係を築いている。市主催の会合や研修会にも出席して意見や情報の交換を行い、施設内研修などに繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、勉強会などで議題として取り上げて意識向上を図っている（職員トイレに掲示）。身体拘束委員会において身体拘束について理解を深めている。日中帯においては玄関、非常口の施錠は行っていない。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、計画的な研修の実施や毎月委員会を開催して、ケアの振り返りや意見交換を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。また、身体拘束や高齢者虐待に関する報道を基に意見交換を日頃から行って職員の認識を深めている。日中は施錠は行わず、利用者の見守りや寄り添いに心掛けて安定を図り、拘束のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についてはホーム内で法律を含めた勉強会を計画的に行い、意識向上をはかっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度などについてはミーティング等で勉強会を実施。日常生活自立支援、成年後見人制度について理解を深めている。対応が必要なときには管理者指示のものと的確な対応が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム見学や入居相談時に、契約書・重要事項など十分に説明して入居を検討して頂き、契約締結前にも丁寧に説明したうえで同意を得ている。解約・改定の際には事前に話し合いの場を設けてご理解を頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族にはご本人様を代弁して頂けるように面会簿に要望などを記入欄を設けてその要望があった場合には早急に改善策を図り実施している。また玄関にご意見箱を設置する他苦情相談窓口・第三者委員の名簿を掲載して外部への相談先を掲示している。	日頃のケアの中での対話や表情、仕草等から利用者の想いの理解に努め、家族からの要望は来訪時や電話、家族会（年1回）、意見箱の設置、情報紙の発行等、日頃から気軽に意見を述べて貰えるように工夫している。出された意見等は申し送りやミーティング等で協議して運営やサービスの向上に取り組んでおり、家族にも報告して理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催のホーム全体会議の中で職員それぞれの業務内容やケア方法などの意見交換・情報共有を行って業務サービスの質の向上を図っている。また不在者に対しては会議録・申し送りノートを活用して情報共有を図っている。	管理者は、毎月のミーティングや日々の業務、申し送り時に職員の意見や提案を聞き取ると共に、日頃から声掛け等により話しやすい雰囲気作りに努めている。必要に応じて個別面談も実施して悩み等を把握し、働きやすい職場環境づくりや業務改善、サービス向上に取り組んでいる	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個性や能力に合わせた勤務・介護、子育て世代に合わせた勤務を実施する等、勤務変更も柔軟に対応している。また全体会議・面談などにおいて職員の意見を聴取して環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時にオリエンテーション記録報告書の記入や行事、全体会議・報告書を記入して提出するようにしている。またマニュアルなどで経験が浅い職員でも業務に対応できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や地区の勉強会に参加したり他の介護施設の訪問などを行い情報交換の機会を設けている。他施設で実施されている良い所を取り入れながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が入居するまでにご家族との面談をできるだけ多く行い、ご家族の思いや考え方に対して聞き取りを行いご本人様が希望する生活を送れるような方向性を導き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後についての説明、グループホームの理念、重要事項などを説明し、ご家族の要望などの情報収集を行う。またご家族との今後のつながり等を維持しながら信頼関係を維持していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居者様に対して医療・各専門職・ご家族などの情報収集を行い、支援内容を明確化する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事（お正月・ちまき作り・からいも餅・野菜栽培など）は入居者様に飾り付け、作り方など教えて頂きながら職員、入居者様が一緒になって実施している。また入居者様の個性や能力に合わせた役割をもち助け合って過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一万の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には入居者様の近況などをお伝えしつつ、外出・外泊の支援をしている。ご家族が遠方の方々に対しては電話や手紙などで連絡をとりながら入居者様の近況を職員が報告したりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアや理容・美容の活用をしており入居者様の友人が面会時気軽に話ができて、交流情報交換が行えるような環境づくりに努めている。	入所時の意向や日頃の会話から、利用者が希望する散歩や買い物、近隣のドライブ、地域行事等に出かけている。菜園の手入れやリビングでの工芸やゲーム、書道等の趣味の継続も支援し、利用者の家族や友人等の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮している。電話や手紙を取り次ぎ、ホーム便りで利用者の近況を伝える等、関係継続に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間で入居者様同士が自由に行き来できたりレクリエーションも合同で行って入居者様同士のふれあいの機会を作っている。ご夫婦の入居者様の受け入れや親類関係の関係の入居者様の受け入れなども考慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会のために定期的に訪問活動を行いご本人やご家族とも良好な関係を継続できるようにしている。訪問時における相談内容は持ち帰って確実な回答をするなどの支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で入居者様それぞれが興味を持たれる話を引き出し、その内容を職員間でも情報共有しながらご本人がグループホームでの生活に希望や意欲を持って生活できるよう支援している。	利用者の思いや意向を日頃の会話や表情、仕草等で把握し、生きがいのある、その人らしい暮らしとなるよう家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者が希望する趣味（書道、パズル他）や家事（洗濯物たたみ、テーブル拭き等）への取り組みを、心身の状況に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、主治医、担当ケアマネジャー等の聞き取り。ご本人の望む暮らしについての情報収集を行い、その情報をもとに入居者様の行動や言動に対する理解を深め職員間における情報の共有化も図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の方々の生活についてその人にあった日課、役割、運動、お手伝いなどの声掛けをしている。またカンファレンスで出来る事、出来なくなった事や精神面なども観察しながらその人にあったケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族と要望内容の聞き取りを行い職員の意見交換、カンファレンスを実施してその方向性や情報共有を図ってモニタリング・介護計画を作成している。	本人や家族の意向や主治医、看護師を含む関係者からの情報を共有しモニタリングやカンファレンス等で意見交換を行い、利用者主体のきめ細かな介護計画を作成している。支援の状況は業務日誌やバイタルチェック表等に詳細に記録し、利用者や家族の状況の変化に応じて、計画の見直しや修正を適宜行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の1日の様子や出来事、状態変化については個別の記録簿を作成して記録を行っている。また職員間での情報共有を行い、支援経過の記入や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のリハビリ支援や行事、誕生会に参加している。ご家族が県外在住の方については買い物にお連れしたり、他科受診の支援など、ご家族の状況に合わせた支援を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員や公民館、地域の方々の支援を得ながら地域行事への参加活動を行っている。また町づくり協議会への加入もしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	木村外科内科と医療連携の契約を行っており、医師の訪問診療や状態変化時の相談や助言を受けている。必要時には他科受診の支援やご本人、ご家族の要望に合わせて主治医との連携を密に取っている。	隣接の母体法人の病院をかかりつけ医としている利用者が殆んどで、定期的な訪問診療や通院により利用者及び家族の安心につながっている。他科受診については家族または職員が協力して同行している。かかりつけ医及びご家族との連携は密に行い、夜間や緊急時にも適切な医療が受けられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、看護師・医療連携看護師に状況報告や医療面についての相談、また対応方法や専門的な指導を受けながらケアに活かしている。随時医療機関との連携を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の状態把握のためにご本人、ご家族との面談（希望、要望等の聴取）や主治医（面談に同行）や看護師、他の専門家の意見を伺いながら退院後の生活準備を職員と共に実施し、その後の医療や他専門家のサポートを受けられる体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームにおける重度化終末期の対応については可能であることを説明し入居前、入居時、入居後（状態変化など）における対応の説明や方針をご本人やご家族の意思を確認して、要望や希望に合わせて実施している。	重度化や終末期のケアについては、指針、マニュアルを整備して利用開始時に本人及び家族の理解を得ている。重度化した時点で主治医より状態が伝えられ、家族及び関係者は話し合いを実施し、可能な限り希望に沿った支援体制で取り組んでいるが、殆んどが終末期には医療機関への入院となっている。重度化や急変時対応の勉強会も実施して、職員のスキルアップや不安感の軽減を図る意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応はマニュアルに沿って対処しており、医療機関と連携体制も確立しています。スタッフ会議の時に緊急時の対応についての研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練(昼・夜想定)を他事業所と連携して実施。避難経路の確認、消火器の使用方法、火災報知器・通報装置の使用方の指導がある。また非常災害マニュアルを作成していつでも職員が閲覧出来るようにしている。非常災害時における対応をミーティングで話し合い、マニュアルの把握とバージョンアップを図っている。	年2回夜間想定を含む防災訓練を、母体法人の病院や隣接の小規模多機能ホーム等と合同で実施している。日頃から避難経路の確認やマスコミによる災害情報をもとに意見交換等を行って認識を高め、隣接事業所及び地域住民との協力体制を構築している。スプリンクラーや火災通報装置、自家発電を設置し、懐中電灯、ラジオ等を整備し、飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の個性を尊重しつつ、またプライバシーに配慮した声掛けを心掛けている。また倫理規定や権利擁護についても全体ミーティング等で定期的に研修を実施している。	プライバシーの確保や個人情報保護については、計画的な研修の実施やケアの振り返り等で認識を図り、ケアに際しては誇りやプライバシー確保に配慮した言葉づかいに日頃から努めている。各居室やトイレ、浴室等はプライバシーに配慮した構造になっており、利用者に関する台帳類も施錠できる書棚で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においてご本人の希望・要望をくみ取りご本人の意思確認をしながら自分のペースで行動・実践ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前に自宅での暮らしやご本人、ご家族から聞き取りを行い生活習慣を把握して自宅のようなペースで生活できるように支援を行い、入居後はご本人、ご家族と介護職員が共に連携して生活の質の向上を図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人が自宅で使用されていた物や衣類をご家族に準備して頂き、着替えの支援なども実施している。散髪も定期的に訪問があり、好みに添うような支援を行っている。外出・行事・誕生日は、ご本人やご家族の準備した衣類を着用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたメニュー作成を行いご本人の食べる能力や疾病に合わせた食事形態(キザミ食、ミキサー食)を管理栄養士の指導を受けながら個別に対応しコミュニケーションを図りながら楽しい食事の時間を過ごせるように心掛けている。	栄養バランスや季節感等に配慮したメニューを法人の管理栄養士が作成し、調理済みの副食が病院から届いている。利用者は歓談しながら食事し、台拭き等も行っている。正月や彼岸等の行事食やクリスマス、誕生日のケーキ、手作りのおやつ、家族との会食、餅つきやあく巻づくりなど食事が楽しみなものになるよう工夫し、摂取状況も把握している。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については起床後・10時・15時・食事中・入浴後にご本人が希望される時、また健康状態に合わせて水分摂取を促している。栄養バランスの保持については主治医・管理栄養士の指導により健康状態を維持出来るように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行ってされる方、一部介助の方、全介助の方がおり個々の口腔状態や嚥下状態に合わせて各人が清潔な口腔状態を維持できるように対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレが利用できる方への対応は、羞恥心に配慮しながらトイレ誘導、排泄確認、後始末など身体状態を確認しながら気持ちよく利用できるように支援している。	利用者毎の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に努めている。便秘の予防に植物繊維の多い食材や水分、運動量、マッサージ等に配慮し、主治医とも連携して改善を図っている。トイレ誘導や衣服交換時には、尊厳や羞恥心等に特に配慮している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指して水分量、マッサージ、運動、食事などを工夫しながら排便を促している。また医療機関との連携体制を整えて便秘傾向の方は内服で排便のコントロールを行っている。また状況により医療連携看護師により摘便施行している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	気持ちよく入浴できるように、プライバシーに考慮して個別に入浴対応を実施している。汚染などにより体が汚れた場合には、直ぐに入浴できるように対応している。	利用者の健康状態に配慮し、週3～4回、シャワー浴や清拭への変更も取り入れながら入浴しており、時間や好みの温度などを柔軟に、ゆったりと安心して楽しめるように支援している。入浴をためらう利用者には、時間や職員の変更、声かけ等も工夫して利用者が意欲を待つように心掛けている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時の生活習慣を考慮して昼寝が必要な方には休息を促して対応している。また就寝時間についてもご本人のペースに合わせて就寝を促し、就寝中は巡視を行って安心して休めるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬ファイルがあり、職員が内容をいつでも閲覧できるようにしており主治医、看護師、薬剤師から服薬助言も頂いている。服薬管理については服薬介助、移動・保管などは2名体制で行い、処方の事前準備も3回の確認作業で確実な管理を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族からその方の生活習慣、趣味などを聞き取り個別に合わせたホーム内での役割(洗濯物たたみ、計算問題、クロスワードパズル等)を提供してやりがいや楽しみを持たせて気分転換出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム内の行事や法人行事、他科受診、外出・外泊などご本人の意向を確認しながら外出する機会を設けている。また地域行事においても地域の方々の支援を頂きながら参加の意思確認を行っている。	外出に対する利用者の意向を、日頃の会話等で把握し、健康状態や天候等に配慮しながら、周辺の散歩や、ミニドライブ、地域のイベント、買い物、通院、一時帰宅、墓参等の外出を家族と協力して取り組んでいる。ホーム全体での外出も計画的に実施してリフレッシュを図っており、利用者の楽しみとなっている	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については許可しておりませんが、ご家族・入居者にその旨の了承を頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	誰でも電話が使える状況にありご家族とのコミュニケーションツールの一つとして支援している。手紙を書く方に対しては文面作成の推敲などの支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、空気清浄機、照明などの環境整備や季節に合わせたロビー、リビングの飾り付けを行い、共同生活や個人に合わせた環境作りに配慮している。ご家族からお花の提供やホーム前の花壇も季節の花を定期的に植え替えて季節感の演出にも配慮している。	明るく広い廊下やリビングは開放感に満ち、遠くに山並み、眼下に高等学校や団地が眺められる。随所に草花や手作りの作品等が飾られて季節を感じながら寛げるよう工夫されている。テーブルやテレビ等は利用者の対人関係や利便性に配慮し、畳部分に掘炬燵も設置され空調や整理整頓も徹底しており、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞を読んだりテレビやラジオの視聴など入居者様が思い思いの時間を過ごせるように配慮している。また個別の居場所も要望を伺い、出来る範囲で対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自宅で使用していた物を置いたりご家族の写真や個人の作品などを置いて自宅との違和感を感じさせないように配慮している。またより良い環境を作るために、ご本人やご家族の要望に合わせて職員間で話し合いの場を設ける。	フローリングに腰高窓の仕様で明るく余裕ある居室には、ベッドやエアコン、タンスが備えてある。利用者の意向を確認しながら整理整頓を日常的に支援し、家庭同様に落ち着いて憩える暮らしとなるよう、使い慣れた寝具やテーブル、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また、自身の作品(書道、絵等)も飾って、その人らしい和やかな雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで車椅子も自由に自走できる広さで、自力歩行の方も手すりを利用している。居室やトイレの場所はプレートを作成して見やすくして自分のペースで過ごせるように声掛けを行い支援をしている。歩行不安定な方は導線を作り転倒予防に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：4 9)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない